

## 2007 年度「館長懇話会」

日時：2007 年 6 月 15 日（金） 12：00 から 13：00

場所：立命館大学 朱雀キャンパス 中川 6 階 601 会議室

テーマ：『これからの大学図書館はどうあるべきか・図書館の近未来像を探る-』

懇談事項：アンケート結果について

進行役の大阪学院大学様より POWER POINT による説明が実施されました。

今回は、館長懇話会に先立ち、アンケートを大学図書館 250 館にお願いいたしました。ご対応いただきました館は、表の通り回答率 54%、未回答率 46%でございました。なぜこうした表を作成いたしましたのかと申しますと、先般日図協の会議に出席いたしましたところ、このようにアンケート・会議にどの程度回答し出席したかというパーセンテージも自己点検・自己評価の一部になるとのをおききしましたからでございます。以前から私共の館では、自己点検ということについて考えておりました。アンケートの回答結果といたしましては、全体の回答率 54%ではございますが、まず地区別の回答率から見ていきたいと思っております。

地区番号 1 は東海地区で回答率 39%およそ回答率 40%、地区番号 2 は京都地区で回答率 68%となっております。地区番号 3 は阪神地区で回答率 46%ということで、少々足もとが寂しい状況です。地区番号 4 は中国・四国地方で回答率 48%、地区番号 5 は九州地区で回答率 70%です。お手元の資料 2 ページ中央右の表に、各地区の回答率を棒グラフにあらわしてみました。50%で線を引き、各地区の回答率が比較できるようにしております。

続いて各質問項目における回答をご紹介します。質問 1、大学図書館の内容は「大学評価」と位置づけられるかということに関しては、「考えられる」と回答された館が 95%ということで、やはり予想通りでした。「どちらとも言えない」が 5%でした。我々が今、大学がおかれている状態から考えますと、大学評価といったものにも取り組んでいかないといけないということです。あわせて地区別の回答のグラフをご覧ください。

質問 2 は、図書館サービスの「評価」を行なっているかということです。「既の実施している」が 38%、「今後実施予定」が 46%で、あわせると 80%以上が実施を考えているということです。あわせて地区別に棒グラフに現しております。なお、評価の方法ですが、いろいろな意見が出されており、ひとまとめにするのが困難でしたが、実際の内容、大学自己点検評価委員会等の設置、高等学校教育評価機構による評価、利用者によるアンケートの実施、大学基準協会の相互評価や第三者機関による評価というように区分いたしました。多かったのは、大学自己点検評価委員会等、利用者アンケート、大学基準協会の相互評価の 3 つで、大学基準協会の相互評価が意外に多い結果となりました。

質問 3 です。大学図書館の地域への開放ですが、「考えている、既の実施している」が 71%、

今後検討を予定が 16%ということで、生涯学習支援の機能が拡大しております。地区別では、京都地区、阪神地区、九州地区が高くなっております。実施内容については、予想通り「相互利用」が多く、一般市民への公開、公開講座受講生への貸出、在学生の父母などといった関係者への開放などとなっております。

質問 4 は、図書館の将来に関して「将来構想委員会」等を設置しているかというものです。「検討してこなかった」が、67%で約 7 割となっており、まだまだ全体として、委員会等の設置に至っておりません。あわせて回答を地区別に棒グラフにしております。また、実際委員会を設置された館が、どのような名称でやっておられるかという資料をあげております。アンケートから抽出いたしましたので、委員会の名称のダブリ等が少々ございます場合もあるかと思いますが、「図書館運営委員会」「図書館のあり方委員会」「図書館対策委員会」といった名称のほか、理事会・総長の諮問機関などもございました。

質問 5 でございます。学生・地域住民等に来館を促進するために、雰囲気・空間作りに取り組んできたかという質問です。回答によりますと、約 70%が既に実施、あるいは予定しているとなっております。あわせて地区別にグラフにしております。つづいて、雰囲気作りに向けた内容ですが、新館を建てた時に、施設の拡充、身障者サービスの充実、専門分野の充実やリフレッシュコーナーの設置などをされたとの回答でした。また、図書館に喫茶店を設置し、喫茶しながら本を読むというご意見に対しては、設けてみてはというご意見ととんでもないというご意見の賛否両論がございました。

質問 6 は、大学図書館の積極的な開放・施設利用ですが、意外にも「まだ実施していない、今後検討」が約 7 割を占め、「実施している」との回答は 3 割でした。この回答は、大学の地域への開放とも関係しているかと思えます。あわせて地区別は棒グラフにして示しました。開放の中身ですが、一番多いのは公開講座にあわせた開放で 19 校、学会等の利用が 8 校、公開講座の受講生の利用証の発行が 3 校、生涯学習講座としては 1 校でした。

質問 7 は、学術雑誌の電子化オンライン化が進んでいくのに伴い、雑誌・新聞をどうしていくのかというものです。質問を設定すること自体が難しい問題ですが、「既に中止している」が 24%で、「今後検討を予定」と合わせると約 7 割となり、「今後ともとりやめることはない」が 3 割です。地区別は棒グラフの通りです。

質問 8 では、公共図書館との連携を図る方策を講じているかということで、大学図書館として難しい点を持っている取組みでございます。回答結果をみますと、「既に実施している」と「今後検討を予定」をあわせると約 7 割、「予定しない」は 3 割となっております。あわせて地区別に棒グラフにしています。公共図書館との連携の内容に関してですが、まず「相互協力・連携の締結」で 24 校、独自資料の提供、図書館検索システムへの加盟等々、回答から抜き出しましております。なお、独自資料の提供、図書館横断検索システムへの加盟、HP のリンクなどは同じような意味合いをもっていたのかもしれませんが、箇条書きに羅列いたしました。

質問 9 です。大学図書館の地域開放に伴い、一定の制限を設けるべきか、どこまで開放

するのかということです。「制限を設けるべきでない」はわずか2%、「どちらとも言えない」が27%で、何らかの「制限を設ける、設けるべき」が70%以上ありました。地区別の回答結果は棒グラフをご覧ください。制限を設けるべき理由ですが、予想通り、私立大学は学生の学費により成り立っており学生を優先させるべきため、が最も多い意見でした。またこの意見に類似しておりますが、教育・研究・学習に支障をきたさないためや、管理体制、セキュリティが整わない、入館システムの課題、スペースがないといった意見のほか、制限内容について定期試験中に限って制限を行う、年齢による制限をされている大学もありました。一報、制限を設けるべきでないという理由は1点ありましたのでご紹介いたしますと、「自由な閲覧の障害となる」でした。また、制限を設けるべきか否かとどちらともいえない理由として、本来大学の利用者のサービスを目的としており、大学が独自に制限を設けるかどうかについては、各大学の考え方によるものだというもの、本来は学生教職員が優先されるべきであるが、大学の地域貢献という役割から一度検討する必要があるというもの、各大学の事情に見合った判断が必要というものでした。

質問10は、高齢化社会における生涯学習を支援する場として、図書館には期待できると考えられるかという質問です。「考えられない」と「どちらとも言えない」をあわせると約6割となっております。地域別の内訳はグラフの通りです。

質問11は、先程の講演にもありました生涯学習につきまして、高齢化社会における生涯学習や地域住民の学習のため、図書室の複数化を促進することが必要と考えられるかというものです。「必要でない」と「どちらとも言えない」をあわせると、約80%となっております。「必要である」と回答されたのはわずか14パーセントとなりました。あわせて地区別内訳は棒グラフにしております。

質問12は、現在高大間の連携が流行っておりますが、この高大連携に関して図書館の活用方策を講じているかという質問です。高大連携における図書館の活用が主旨となります。回答結果は、「既に実施している」「今後検討を予定している」を合わせると、70%を超えています。地区別回答は棒グラフをご覧ください。高大連携における図書館の活用の方法については、予想できたことですが、「併設中学・高校生の利用」「周辺市町村との協定に基づく高校生への開放」「夏季休暇中期間中の地域高校への開放」などの回答が寄せられました。

質問13は、図書館が今後情報の発信機能を果たしていくために、他の図書館や地域社会との連携が重要な課題となると考えられているかという質問です。情報に関しては、先ほどの総会においてもご質問が出ておりましたが、情報流行で図書館でも情報の自己点検をしなくてはいけませんでしたし、また昨今図書館が図書館という名称に戻ってきている状況もあります。回答結果は、「重要な課題」と考えているが8割以上となっております。地区別内訳は棒グラフに表しています。

質問14は、電子媒体やオンラインデータベースの普及活用により、前の質問とも関連して、図書館は本来の機能を果たさなくなると思うかという質問です。「そうは思わない」が

85%と圧倒的に上回っており、「どちらとも言えない」が14%です。地区別内訳は棒グラフをご覧ください。

質問15は、インターネット利用等に基づく「遠隔学習」に図書館が果たすべき役割があると考えられるかです。「考えられる」が74%、「どちらとも言えない」19%、「考えられない」が1%で、多くの大学は圧倒的に重要な役割があると考えておられます。地区別は棒グラフにしてあります。

質問16は、この質問が我々にもっとも重要な課題であります。図書館の将来への方向性、それに対応していくための図書館長の果たすべき役割、そのためのシステムや課員の教育の向上は必要かというものです。寄せられた意見や見解は68件でございました。その概要でございますが、意見を大きく分類すると(1)予算・人事等の大学運営に関すること、(2)図書館の将来像・ビジョン/リーダーシップに関すること、(3)資料・情報の収集と管理に関すること、(4)教育・研究の支援/レファレンス・サービスに関すること、(5)広報・PR活動・他館との連携、(6)その他となります。次に具体的に図書館の果たすべき役割(期待)ですが、①大学運営機関・教員等との「調整役」が22校、②図書館の将来像の明示、図書館行政におけるリーダーシップの発揮等の政策実現能力が29校で、①②の役割とする意見が圧倒的に多くございました。次に③教育研究成果の収集、情報発信・提供、資料の保存と活用、デジタル情報の収集と活用、情報処理能力など、専門的スキルに関するご意見、能力が必要なのだということがみられました。更に、④他館との連携促進、地域への貢献・連携、⑤知的所産の継承、⑥利用度の向上、利用をいかにして促進させるか、また今回の図書館の自己評価と関係して⑦図書館評価指標の確立、⑧図書選定能力となっております。

そこで、このご意見の全体から見えてくる館長の姿というものを私どもでまとめました。まとめる中でみておきますと、私立大学の図書館長とはその多忙さとも相俟って、悲哀も漂ってまいりました。(1)苦悩する大学図書館長ということで、私立大学を取り巻く情勢は変化しており、図書館長が「形骸化」「名譽職化」してはいけないということです。自らが求め、また求められるべく大学内において積極的役割を果たしていくべきです。(2)大学行政において求める立場ですが、館長としてのリーダーシップの発揮、教学システムと図書館の調整役でなければならない、また館長は大学の顔となるべき必要があります。

(3)館長に求められる資質と役割ですが、まず図書館スタッフの調整役であること、専門職としての司書の技術や職能教育の実施、私的資源の継承に関する審理役、図書館機能活性化のための責務、図書館が収集すべき図書選定能力が資質と役割として挙げられます。また報告には記載していませんが、図書館が大学内の確固たる地位を築くべくリーダーシップや政策能力の発揮が館長には必要であること、そのために頻繁な館長の交代は避け、固定年期をもつべきである、館長の専門分野を図書館に生かすなどというご意見もありました。教員との調整や大学内他機関と図書館とのネットワーク作り、他大学との大学間ネットワークづくりにおける積極的な役割への期待もあります。そのほか高等教育推進の政策を持つべきであろうというご意見、また図書館の評価ができる専門的スキルが必要であ

るといふ貴重なご意見が寄せられておりました。

次に、職員のスキル向上や職員に求められることへ図書館長の果たすべき役割との関わりについて、ご意見を頂戴しています。①司書として、専門知識、学術知識の修得、修士号をもたない職員がいる事務組織の改善、②情報化の進展にともなう情報処理能力の向上、③対人サービス、リファレンス能力など、幅広い教養と知識の修得や政策実現能力をもった専門分野の事務組織の集団化が必要と考えられております。

さらに、大学図書館の果たすべき役割については、①従来型資料の保存と活用、デジタル情報の収集と提供、②教育研究成果の収集と情報発信と共に教育支援施設としての役割のほか、③地域社会への貢献・連携推進のため、地域社会への図書館の開放が必要であるというご意見もありました。特に、②教育研究成果の収集と情報発信と共に教育支援施設としての役割につきましては、圧倒的に多数のご意見をいただき、図書館は自立的な情報の発信基地たるべきであり、読書をする場、レファレンスも含め学習や研究の支援の場としての役割が求められております。

このようなアンケートの結果を踏まえて総括に入る前に、アンケートの趣旨をご説明します。アンケートの趣意書から引用いたしました通り、今回のアンケートでは、情報化社会が深化する社会の中、変化する 21 世紀への大学像に対応するため、大学の図書館も相応の役割を果たさなくてはならない状況になっており、どのような方策や取り組みがなされるべきかを考え、一助となることを目的としております。

現在では、図書館職員の業務も情報機器の導入やアウトソーシングにより、実務は少なくなりつつあるようにも思えます。総括としてまとめました。(1)総会でも申されておりましたが、図書館に情報機器が導入され、蔵書管理や情報検索が瞬時に行なえるようになったものの、図書館職員の本来的業務には大きな違いはない。むしろ、複雑化・煩雑化する業務への対応が求められてきております。また(2)のように、インターネットの発達に伴い、非来館による情報収集が可能となっています。そんな中、(3) 図書館の提供する情報の精選化と質的向上のためには、館員は自ら研鑽や努力が今以上一層求められます。そして、(4) 大学図書館の位置づけや重要な役割は次のようになります。①学生への学習指導や図書館利用のアドバイザー、②対教職員への学術文献や資料収集へのサポート、他館と相互利用推進の役割、③地域住民へのサービスや生涯学習支援の役割です。また、(5) 大学図書館は地域住民の「身近な図書館」であり、高度の専門書と専門知識を有したスタッフに存在意義が大きい上、(6) 大学改革では図書館をいかに位置づけていくのかも重要な課題です。そのためには、図書館長が図書館全体のマネジメント・運営を円滑に果たすべき役割を担います。そしてその役割を担うために、館長は館員とのコミュニケーションを密にする必要があります。一方で、(7) 図書館の現場は司書資格を持つ専門家集団が担当すべきであり、知識の習得と自己研鑽が常に求められています。役員会でも話がでておりましたが、(8) 図書館業務の外部委託化が進んでおり、図書館業務が誰にでもできる仕事という認識を生じさせますが、利用者に対して満足のいく知識や対応ができていなければ、

図書館全体の地位の低下を招いてしまいます。そこで、(9)図書館の業務は常に見直しを行わない改善に努める必要があります、レファレンス業務の質の向上により来館者満足度やリピータを増加させる工夫が必要です。そして、(10) 図書館長は職員が本来的な役割を遂行できるよう、予算折衝と管理等、図書館全体のマネジメントに責務を持つことが必要です。

最後に、総会でも話し合われましたが、情報化が進展していく中で図書館の本質はかわっていないということが、アンケートより伺えました。今年度の「図書館雑誌」の5月号掲載の私図協の記事や過年度の西地区部会の研究会をみますと、我々は間違った方向に向かってはいないと思われませんが、実際これからどのようにしていくのが難しい点がございます。他大学との温度差や地域による温度差もあります。今回は、西地区としての連携を進めていく今後の土台としてこのアンケートを活用することができればと思います、報告させていただきました。以上でプレゼンは終わりましたが、内容やご意見がありましたら、ぜひどなたからでも発言していただければと思います。その際に所属大学とお名前を言っていただけたらと思います。宜しくお願いします。

#### ○九州女子大学館長

総会でのご報告や西地区内での研究会及び他地区の研究会において、様々な発表がされていますが、経費（交通費等）などの関係で常に館員が研究会に参加出来ません。資料の13 ページにあげられているように、職員のスキル向上のため、ぜひ西地区のホームページなどを利用して原稿をアップしてもらいたい。また個人名を出さずにホームページ上で発表者等へ質問できる体制や、そこで質問をFAQのような形にする事の検討をぜひお願いしたい。HPを通してリカレント技術を活かしていただき、協会等を経由してでも結構ですが、ぜひお願いしたい。希望でございます。

#### ●大阪学院大学

役員会等で検討していき、相談させていただきます。出来る限りご意向に沿った形としたい。会報等に発表が載っていますが、一方通行でなく出来る限りやり取りが出来ることが望ましいということですね。ホームページ資源の問題や技術的な問題等もありますので、すぐ出来るかどうか確約は出来ませんが、会長校とはからいながらぜひ検討します。

#### ●会長校（中央大学）

会長校としても検討していきたい。地区部会でも検討してもらいましょう。

#### ○沖縄国際大学館長

アンケートの趣旨とずれるかもしれないが、これからの大学図書館がどのようにあるべきかということについて皆さんにぜひお聞きしたい。私は昨年4月から就任して1年経ち、ようやく図書館の運営についてわかってきました。大学図書館は学術情報提供の場、サービスの提供だということは間違いないですが、もっと多面的文化の発信の基地としての役割を担っていくべきだと考えます。学生は、本を読んでも新書ぐらいしかなかかなか読みません。現在図書館内に図書館委員会をつくり、専門書の学術書だけでなく学生の興味を引

きそうな図書を選書しております。

ただ、学生の関心を喚起するためには、従来の図書という形にとらわれないことも必要です。そこで、最近DVDの映像資料も収集しており、先日はシュークスピアの80万円程度の資料の購入いたしました。このように映像資料を図書館に揃えることも必要であると思っております。また、モーツアルト生誕200年を記念して図書館のホールでオペラの映画を上映したり、活躍しているOBに頼んでコンサートを開催したり、琉球舞踊などをおこないました。「文化」の発信基地として、大学としてそのような施設が弱いのであれば、図書館で実施することも考えられると思います。もちろん、本当に図書館がそこまで手を広げる必要があるのかという賛否両論の意見もありますが、これからの図書館ということで、皆さんのお知恵を拝借したいと思います。他大学様で学生の関心を喚起するために実施されている、何か先進的な事例はありませんでしょうか。

● 図書館に利用者呼び込むためのイベント等で成果をあげられている大学様は、いらっ  
しゃいませんか

○ 中京大学図書館長

一つだけ事例をお話いたしますと、本学は豊田市内にもキャンパスがございますが、オリンピックと関わりがあり、以前に体育学部の協力も得、オリンピックに関する展示を開催しました。その時には大学の関係者より借りて、本物の金メダルも展示いたしましたところ、地域から市民の方も来館されたり、小中学生が見学にくるなどということがございました。見学された方が見に来て良かったなあという感想を持ってくださる。このように手持ちのものでも、うまく使えば図書館から発信できることがあります。

●大阪学院大学

我が校では、大規模校なことでもなく、色々やってみようということで、企画展示を考えております。

その企画展示につきましてもう少しご紹介いたしますと、ワールドサッカーの時期にサッカー関係の展示をいたしましたし、先日は、「食の安全を考える」という題で行ないました。こういった展示企画は、学生の関心をひくことが必要であり、これまでのようにただ利用者が来るのを待っている時代は過ぎ去ってしまいました。今は、現実の利用者を見て企画運営をしていくことが必要であると思われまます。本来ならば、小学校低学年から図書館教育の必要性を教えることが大切です。しかし、現実には学校は受験一本で、受験に必要な科目以外はなかなか他までゆとりがなく、手が回らないのが現状のようです。ぜひ、公共図書館との連携も考えていかななくてはなりません。

図書館人が集まると愚痴を言い合うことが多く、何だか暗い気持ちになってしまいますが、図書館にどっぷりつかっておられる館長さんだけでなく、館員にも意見を言ってもらい、いろいろ試みていく必要があると思われまます。

●会長校（中央大学）

展示会の件ですが、お恥ずかしい事例ではございますが、展示ケース2つぐらいで中央

大学を出ました作家の作品、志茂田景樹などの作品を展示いたしました。こんな作家が本学の先輩にいたのだと、学生達に驚きとともに好評でした。また、グッド・ウィルの作品やコレクションを持っているので、学生・利用者さんに見てもらいました。情報を提供するだけでなく、持っている資料を展示するということをしております。

#### ○愛知東邦大学

大学祭で、一部教員と職員でミニコンサートを地域のサークルと一緒に実施しましたし、絵本の読み聞かせをサークルともやりました。そうすると、企画に参加した人たちが本を借りていきます。こういった企画が 2 年ばかり続いております。企画が続きますと、教員や地域のつながりができていきます。

#### ●音楽学部がおありですか。

○学部構成は経営学部、そして短期大学です。短期大学がなくなりまして、今度人間関係、子ども発達関係の学部が出来ます。そうすると大学内の体質が変わり、教員も幼児教育や音楽などを学んでおられる人も多いので、副産物としてこういうこともできます。また、たまたまですが、職員も音楽をやっている人が多く、楽しんでやっています。図書館では、ダンスの主催や市民講座にとソフトに連携しています。また、郡上おどりは、市民講座と連携し一泊 2 日で実施しており、このようなことを図書館ですることに抵抗感はありません。

#### ○愛知大学館長

私どもの大学では、教員の専門を活かして、毎年教員の専門分野に関わるものを 1 つ～4 つ程度展示をしています。ちょうど今は、少数民族の研究をされている教員がおりますので、少数民族に関わる中国の年賀状や木版画に、解説を加えたものを展示しております。場所は、図書館の入口の入ってすぐの広いスペースがあるところを利用しています。愛知県立大学内に国連寄託図書館があるため、国連の専門等を扱っておりますし、中国語研究も盛んであるため、愛知大学の中国語大辞典等を展示しています。ただし、こういった資料を集めてくるには大変労力がかかるので、教員と職員の協力が不可欠です。

●ちょうどお時間が参りました。ご歓談の中でご紹介いただいた取り組みも参考になりました。今回の館長懇話会では、利用者の目線に立った企画・運営が求められている状況において、私共は、今後一層図書館長としての専門的な視点とリーダーシップが重要であるということ、共有できたのではないかと思います。

以上

記録：立命館大学図書館（木下・栗谷）